

平成25年度第3回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成25年6月20日（木） 13：00～14：30

場 所：各コア校（遠隔会議システム利用）

議 題：

1. SPOD事業評価について

- ・平成24年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応策について（案） 【資料1】
- ・平成24年度SPOD事業の評価について 【参考資料1】

2. SPODフォーラムについて

- ・SPODフォーラム2013チラシ 【資料2-1】
- ・SPODフォーラム2013シンポジウム実施要項（案） 【資料2-2】
- ・SPODフォーラム2013シンポジウムシラバス（案） 【資料2-3】
- ・展示スペース等の設置について（案） 【資料2-4】
- ・SPODフォーラム2013アンケート（申込み時事前アンケート） 【資料2-5】
- ・SPODフォーラム2013アンケート（個別プログラム用） 【資料2-6】

3. SPODネットワークコア運営協議会FD／SD専門部会について

- ・平成25年度SPODネットワークコア運営協議会FD専門部会（第1回）議事概要 【資料3-1】
- ・平成25年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会（第1回）議事概要 【資料3-2】

4. 新任教職員研修の開催について

- ・第20／21回愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項 【資料4-1】
- ・教育力開発基礎プログラム実施要項 【資料4-2】

5. その他

平成24年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応策について（案）

【すぐに検討が必要な課題】

事項	評価委員からの意見		対応策(案)
1. 多様なニーズに応じた研修プログラムの開発	①	【FD】 現在在職している教員が学生時代を過ごした大学の授業経験とは全く異なったポリシーで教育改革が進もうとしている。このような新たな動きを的確にFDの中で研鑽できるようなプログラムの提供を願いたい。特に授業外で学生が学習しなければならないような授業をどのようにして行うかという課題は重要と考える。	SPODフォーラムでは、平成24年度はアクティブラーニング、平成25年度はポートフォリオを全体テーマとするなど、時代のニーズに沿ったプログラムの提供を行っているが、更なるプログラムの充実のため、外部機関等との共催についても検討する。学生の時間外学習についてもe-learning関連のプログラムの開発等も行っており、今後も社会の動向をとらえたプログラムを開発・展開するよう努める。 さらに、SPOD全加盟校の教員向けに実施された「SPOD教員向けニーズアンケート」の集計結果や調査・研究プロジェクトでの調査結果等を検証し、ニーズに合うプログラム開発につなげる。また、FD／SDプログラム受講者アンケートの分析を行い、レベル別、経験年数別等のプログラム開発についても検討する。 FDプログラムについては第2段階に入ってきたとも考えられ、プログラム開発においてはミクロレベルのFDからミドル、マクロレベルのFDへ視野を広げ、研修分野や研修形態等も含め、研修のあり方について見直しを検討する。 また、積極的に新規講師の開拓に努めており、今年度のフォーラムでも新たに4人が加わった。今後も、幅広いニーズに対応できるよう講師の開拓を行う。
	②	【FD】 プログラムがやや出尽くした感がある。これに伴うマンネリ化があるのではないか(実施者自身にも)。	
	③	【FD】 プログラムの内容がミクロレベルのFD(授業・教授法の改善)に偏っている。長期的な関与も含めて、ミドルレベルやマクロレベルのFDを充実させていくべきであろう。	
	④	【FD・SD共通】 教職協働は、古くて新しい課題である。どのように教員と職員とが協働して教育研究等を推進するか。FDとSDとにまたがる課題検討プログラムの開発が必要になってきているように思う。	SPODフォーラム2013では、新たにマネジメントレベルのFD・SD共通プログラムを実施予定であり、教員と職員が共に考え、交流する機会を設けている。今後もこうしたFD・SD共通プログラムの開発を検討していく。
	⑤	【SD】 次世代リーダー養成ゼミナールについては、もう少し広範に、優秀だが手を挙げたくても挙げられない職員に受講してもらう手だてを考える必要があるのではないか。	今年度から本格始動する調査・研究プロジェクトの1つである、SDの効果検証及び組織変容を検証する「連携効果・組織変容検証プロジェクトチーム」には、次世代リーダー養成ゼミナールの修了生等も加わっており、修了生を通じ、本ゼミナールの有効性を広く発信することにより、研修参加にあたっての周囲の理解を図っていく。 また、次世代リーダー養成ゼミナールについては、修了生を管理職にあてる等、制度化された組織も出てきており、その有効性は認められつつある。これらの組織を成果実例として発信していくことにより、各加盟校における本ゼミナールの活用を促していく。
2. 教員の資格化	①	【FD】 新任教員研修が標準化したのであるから、教授能力証明書の発行やその基準についても、迅速に進める必要があるのではないか。	調査・研究プロジェクト事業の1つ「高等教育教授能力証明プログラム検討ワーキンググループ」においてすでに議論を始めており、今後も引き続き検討を行う。
3. SD講師養成	①	【SD】 SD講師養成プログラムを利用して内部で指導者を育成する方向は適当である。ただ、それらのプログラムにおいて、講師とはこのような資格、能力が必要であるとステレオタイプに考える必要はないのではないか。教えるという体験や経験が第一に重要である。教えるという体験や経験を通して得られた喜びや失敗や改善等を検討課題とした講師養成プログラムを是非検討願いたい。	経験の少ないSD講師については、事前に模擬授業を行い、SPOD－SDC等の助言により、個性を活かした講師となるような環境が整えられている。頂いたご意見を参考に、今後も、SD講師養成に努めていく。
4. SPOD事業の取組成果の検証、情報発信	①	【FD】 SPODが提供しているFDプログラムが、教員のニーズにキャッチアップしていないかもしれない。教員は何を求めているかという原点にもどって再度分析し、教員がこのFD出席は必須と考えるような環境とし、広報を工夫するよう求めたい。	上記1－①～③への対応を含めFDで真に必要とされている研修の開発・提供に努める。 SPODホームページやメールマガジン等を活用し、SPOD事業の積極的広報及びフォーラム等の様子の一部を動画で配信するなど、プログラムガイドや実施要項では伝わらない情報を発信していく。 SPODフォーラムについては、今後他のネットワークや機関などと連携しての共催を検討し、参加者の増加やプログラムの充実を図る。 また、FDを必須とする環境については、テニユア・トラック制度を導入し、対象教員に一定時間の研修を義務づける組織も出てきている。大学設置基準等では、教員のFDが義務化されており、加盟校内の教員がSPOD事業のFDプログラムを積極的に活用してもらえるよう、当大学の事例を含め、広報活動を充実させる。
	②	【FD】 SPODフォーラムへの参加者が職員(65%)、教員(33%)と、少しアンバランスになってきている。フォーラムだけでなく、全般的に、SPODのFD事業に対する加盟校教員の関心が低くなりつつあるのではないか。	
	③	【SD】 SDの研修会やスタッフ・ポートフォリオをこれだけ大々的に実施されておられて、職員の能力は高くなったのか。研修会参加の満足度はわかるが、これだけの規模で長期間実施されておられるので、その成果を見せていただければ、我々の役に立つ。	1－⑤への対応と併せ、スタッフ・ポートフォリオを活用して、研修受講後の職員を継続的に追跡していくシステムについて検討する。 次世代リーダー養成ゼミナールについては、受講生や修了生の間でネットワークが構築されており、このネットワークを活用しつつフォローアップ調査を行い、研究論文等にまとめ、公表していく。さらに、受講生が作成している報告書については、プロジェクト実践論文となるよう指導体制を強化し、現行のレポート集にとどまらない、広く成果を確認できるものとなるよう見直しを図る。また、本ゼミナールは長期的に見れば組織内における成果は十分見込めるプログラムであるが、他の研修と比較して予算だけでなく講師への負担も圧倒的に大きいため、今後受講料の一部を各機関において負担いただくことが可能かどうか調査を含め、検討していく。
	④	【SD】 次世代リーダー養成について、対象者の割には予算投資が大き過ぎると言える。プログラムの重要度は理解されるものの、このような投資に見合う成果が出ているかどうかについては大いに検討する余地がある。	
5. SPODの方向性	①	【SD】 何のためにSDを行うのか、目的がやや不鮮明な印象を受ける。	SPOD事業を開始して5年が経過する中で、実際の運用を経て当初の構想との乖離が生まれ、その課題が見えてきている。今年度はSDマップの見直しを検討しているため、SDの目的も含め実情に合ったSD構想を検討する。
	②	【組織運営等】 SPOD立ちあげ当初に描いていた構想(大学カリキュラムのようなもの)が変容しているようにも思える。一度、構想を見直し、現実的な構想を再度立てていただきたい。	

【すぐに検討が必要な課題】

事項	評価委員からの意見		対応策(案)
6. SPOD内ネットワークの強化	①	【組織運営等】 拠点校以外の大学の積極的な関与が見えにくい。たとえば本組織の運営に関して、各大学の役割と責任を明確にすること、積極的な役割分担を促すための支援を行うことなどが必要ではないか。	SPOD事業の運営についてはネットワークコア校が担当することとなっているが、研修実施にあたっては、コア校以外の加盟校からも講師を担当できる者の発掘・育成に取り組んでおり、こうした形で事業へ貢献いただいている加盟校も増えてきている。また、フォーラムはSPODのメインイベントの一つでもあるため、今後実施にあたっては、開催校の教職員のみならず各加盟校の教職員にも当日の運営の手伝いを呼びかけるなど、各加盟校が連携して事業を進められるような体制について検討する。
7. SPODにおける取組の評価、検証	①	【FD・SD共通】 カリキュラム／組織変容の継続的支援。複数の機関をパイロット校として、資源を投入するターゲットを絞りこみ、連携成果をあげるというアイデアについても検討するといいい。現状のように単発の研修会ではなく、組織変容、カリキュラム変容を長期的に促進するというプログラムである。対面と遠隔会議を年に何回か繰り返していくというシステムである。	SPODは加盟校の分担金による連携事業であるため、ある組織に絞って資源を投入するかどうかについては慎重に議論すべきである。ただし、調査・研究プロジェクト事業の1つ「組織変容検証ワーキンググループ」において、組織変容が見られる加盟校について、その経緯を調査する予定である。その結果を加盟校内で発信していくことにより、他加盟校の参考となり、組織改革の一助となることを目指す。
8. ポートフォリオの普及促進	①	【SD】 現在のポートフォリオは、身上調書と変わらない。これをあえてポートフォリオと読んでいる意義が不鮮明である。	スタッフポートフォリオ(SP)は、これまでの身上調書とは違い、職員の業績記録(エビデンス含む)、自らのビジョン(理念)・ゴール(目標)等を取り入れている。作成に当たっては、メンタリングを実施し、組織と職員個人のベクトルを近づけている。これらにより、職員自らがこれまでの業績に基づくキャリア形成を図ることができ、かつ、組織的な人材育成にとっても有効なツールとなっている。また、愛媛大学においては、人事異動の希望といった身上調書的な要素を取り入れた独自のSPを導入している。このように、人材育成にとって有効なツールとなること、各組織独自のSPが考えられること等、SPには身上調書とは違った有効性や特長がある。今後、大学行政管理学会等でSPの有効性・特長を発表していくことにより、その普及に努める。
9. SPODの事業運営	①	【組織運営等】 これから「SPODフォーラム」を毎年各県に回し、オリンピックのように4年に一回フォーラムが各県に回っていくように定例化すると、四国全体が活性化するのはないか。	平成25年度については愛媛大学開催となるが、来年度については高知大学で開催予定である。ご提案の開催場所持ち回りの定例化については、各校の事情を考慮しながら、今後ネットワークコア運営協議会でルール化について検討していく。

【中期的に検討すべき課題】

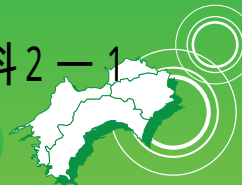
評価委員からの意見	対応策(案)
【組織運営等】 当初事業計画から事業も拡大し深化してきている。SPOD事業における統合と分化の方向性について、中期計画の形で参加校で共有する時期に至っているように思う。	SPOD事業における統合と分化の方向性について、「SPOD将来構想ワーキンググループ」を今年度に立ち上げ、中長期の目標を検討していく。
【SD】 愛媛大学や次世代リーダーを越えて、加盟校全域にスタッフ・ポートフォリオを促進するための仕組みについて早急に議論すべきである。すでに大阪府立高専でもスタッフ・ポートフォリオの作成ワークショップが開催される予定である。SPOD内で生まれた取組みをまずはSPOD内で普及させるべきである。	SPODフォーラム2013の統一テーマが「ポートフォリオ(TP・SP・LP)による質向上」であり、TP、SPの広報の場として情報発信に取り組む。 ただし、SPについてはSPODが開発したもので歴史も浅い上、メンタリングを実施しながら作成を行うものであるため、普及には時間がかかる。しかし、今後も普及のため学会等でSP導入の成果について積極的に発表していく。
【FD】 ティーチング・ポートフォリオをSPOD内でどのように位置づけていこうとされているのか、方向性が分らない。	
【FD】 四国全土という大規模でFDを共同で推進してこられて、それぞれの大学の学生は教員が変わっていることを実感しているのだろうか。	調査・研究プロジェクト事業の一つ「学生調査・IRワーキンググループ」が実施予定の学生アンケートの中で、学生の学習環境と併せ、教員に関する設問を入れる予定である。

【長期的に検討すべき課題】

評価委員からの意見		理 由
【組織運営等】 SPODの地域性や資金面を考えると、国だけではなく地域の行政や民間企業との交流機会をつくっていくことが大切である。		SPODの今後の持続的な運営を考えた場合、自治体等との連携・支援を得ることは有用である。四国の大学活性化を通した四国の活性化を目指し、社会貢献を視野に入れた取組を検討し、行政からの支援を得る方策も考えられるが、実現に向けてはニーズ調査・人的資源を含めて検討課題が多く時間を要する。
【FD】 FDer養成の取組は高く評価できるが、一時検討されていたFDerの資格化は、その後どのようなものか明確にする必要がある。資格に関する方針を明確にしてほしい。		現在日本高等教育開発協会(JAED)において検討中であり、今後、その動向を見つつ検討していく予定である。

SPODフォーラム 2013

資料2-1



ポートフォリオ(TP,SP,LP)による教育の質向上

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



SPODフォーラムは…

大学・高専の教職員が自らの能力開発のために役立つ多種多様で質の高いFD/SDプログラムならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

日時・場所

2013年8/20(火)▶23(金) 愛媛大学 城北キャンパス

主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)／愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

参加申込期間

SPOD加盟校の教職員限定受付 2013年6月28日(金)正午～7月12日(金)正午

※事前申込制(先着順)

一般受付(SPOD加盟校の方も申込可) 2013年7月16日(火)正午～7月31日(水)正午

参加費

SPOD加盟校の教職員 無料 SPOD加盟校以外の教職員 7,000円

※懇親会費、ランチセッションの弁当代は除く。

特徴

1

多彩な講師陣

先進的な教育改革で知られる大学のトップ、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員や高等教育開発者(ディベロッパー)、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェSSIONALなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえました。

特徴

2

職場で使える実践型プログラム

講師と受講者の間でのインタラクティブなワークショップ形式のプログラムが数多く開講されます。参加者は意見を出し合い知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。

特徴

3

SDプログラムも多数開講

SPODでは、FD(教員の能力開発)同様にSD(職員の能力開発)に力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講しています。教育改善に関心のある多くの教職員の方の参加をお待ちしております。(教員の方もSDプログラムに参加できます。)

詳細・申込はWEBをご覧ください ▶ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

主な交通機関

※駐車スペースはありませんので、公共の交通機関の利用をお願いいたします。

- JR松山駅から
- 伊予鉄道市内電車…環状線①(古町方面行き)「赤十字病院前」下車
 - 伊予鉄バス……………東西線「愛媛大学前」下車
- 松山市駅から
- 伊予鉄道市内電車…環状線②(大街道方面行き)「赤十字病院前」下車

—参加者の声—

- はじめて参加したが、非常に熱気にあふれる前向きな雰囲気に圧倒されつつも、その中に入って夢中で取り組むことができた。
- 受講生だった方が講師を務められるなど、キャリア形成の、よいスパイラルも展開されているように感じた。
- 大学職員が危機感をもってこれからの高等教育に携わっていく必要性を体感した。



お問合せ先

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育企画課)
☎089-927-9154 ☒E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

●プログラムを受講する方は、必ず受講初日に、全体受付を済ませてください。

全体受付

■場所: 愛大ミュージズ1階 ■時間: 8/20(火) 12:00～、8/21(水)～23(金) 9:00～

会場	愛大ミュージズ 1階	愛大ミュージズ 2階	愛大ミュージズ 2階	愛大ミュージズ 3階	愛大ミュージズ 3階	校友会館 2階	共通教育講義棟
時間	アクティブラーニングスペース2	M23	M24	M32	M33	サロン	12番教室
1日目 8月20日(火)	13:00～15:00 FD 高専の新任教員を、どう育成するか?—新任教員研修を作成しよう!— 坪井泰士 (阿南工業高等専門学校) 定員 12名	13:00～15:00 SD 改革戦略のつくり方序論①② 福島一政 (追手門学院大学) 定員 20名	13:00～15:00 SD 若手職員に知ってもらいたい『報・連・相』のコツ—もっと良くなる職場内コミュニケーション—①② 次世代リーダー3期生 定員 28名	13:00～15:00 FD はじめてのラーニング・ポートフォリオ 山田剛史 (愛媛大学) 定員 50名	13:00～15:00 FD 先達に学ぶ、卒前シミュレーション医療教育①② 池上敬一 (獨協医科大学) 山脇孝 (愛媛大学) 定員 20名	13:00～15:00 FD・SD 共通 発達障がいのある学生をどう理解し、支援するのか 坂井聡 (香川大学) 定員 40名	
	15:30～17:30 FD 学習評価の基本 山田剛史 (愛媛大学) 定員 40名			15:30～17:30 FD 大人数講義法の基本 小林直人 (愛媛大学) 定員 50名		15:30～17:30 FD グラフィックシラバスの作成方法 佐藤浩章 (愛媛大学) 定員 40名	

2日目 8月21日(水)	10:00～12:00 FD・SD 共通 大学の危機管理①②—研究室マネジメントとハラスメント対応— 佐藤浩章・阿部光伸・吉田一恵 (愛媛大学) 定員 40名	10:00～12:00 SD スタッフ・ポートフォリオ作成ミニワークショップ①②③ 大竹奈津子・清水栄子・阿部光伸・上甲功治 (愛媛大学) 玉岡兼治 (聖カトリック大学) 定員 20名	10:00～12:00 SD 若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座①② 秦敬治・仲道雅輝 (愛媛大学) 松井千代美 (松山大学) 定員 60名	10:00～12:00 FD・SD 共通 教育改善のためのIR入門ワークショップ①② 中井俊樹 (名古屋大学) 山田剛史 (愛媛大学) 定員 50名	10:00～12:00 FD・SD 共通 経営課題として中選対策に取り組むワークショップ①②③ 山本繁 (日本中選研研究所) 定員 20名	10:00～12:00 FD ティーチング・ポートフォリオ作成ミニワークショップ①② 栗田佳代子 (東京大学) 定員 40名	10:00～12:00 SD 学務系プログラム (レベル1) ① 学生支援概論 米澤慎二 (愛媛大学) 定員 40名
	13:00～15:00 FD 教えずに学ばせる授業—自律学習プログラム入門— 坂田浩 (徳島大学) 定員 40名		13:00～15:00 SD 社会連携系プログラム (レベル1) 社会連携基礎 土居修身・兒玉直子 (愛媛大学) 定員 40名	13:00～15:00 FD・SD 共通 評価対応のためのIR—システム形成とその課題— 岩崎保道 (高知大学) 定員 15名		13:00～15:00 FD 理工系の講義形式授業の中で学生を輝かせるひと工夫 榎原久 (芝浦工業大学) 吉田博 (徳島大学) 定員 30名	13:00～15:00 ② 入試情報調査論 菊川昭治 (愛媛大学) 定員 40名

3日目 8月22日(木)	10:00～12:00 FD 効果的なグループワークの進め方 大竹奈津子・仲道雅輝・津曲陽子 (愛媛大学) 定員 40名	10:00～12:00 SD 職員のためのキャリアアップ講座—科研費を題材にして— 阿部光伸 (愛媛大学) 野口悟 (高知大学) 定員 40名	10:00～12:00 SD 職員向けマネジメントセミナー—もし、あなたの大学にドラッカーがいたら— 秦敬治・清水栄子 (愛媛大学) 定員 60名	10:00～12:00 FD・SD 共通 ツールを使ってコミュニケーション—自己理解と他者理解— 野口里美 (香川大学) 定員 28名	10:00～12:00 FD ルーブリック評価入門—考える、つくる、活用する— 保野秀典 (高知大学) 定員 40名	10:00～12:00 FD・SD 共通 学生の想いを聞き出す、引き出す—学生支援、はじめの一歩— 塩崎俊彦 (高知大学) 吉田博 (徳島大学) 定員 40名
	13:00～15:00 FD 学びを大学生の手にもどすための教育理論 富田英司 (愛媛大学) 定員 35名	13:00～15:00 SD 後輩ができた若手・中堅職員のための観察力養成講座 仲道雅輝・津曲陽子・久保秀二 (愛媛大学) 定員 40名	13:00～15:00 FD・SD 共通 大学改革を行う上でのトップマネジメント—金沢工業大学の教育改革と教員マネジメント— 石川憲一 (金沢工業大学) 定員 100名	13:00～15:00 FD 授業アンケートを活用した授業改善 澤田忠幸 (愛媛県立医療技術大学) 定員 40名		13:00～15:00 大学院生・学生 四国キャンパス元気プロジェクト2013—きんばす— 塩崎俊彦 (高知大学) 吉田博 (徳島大学) 定員 40名

シンポジウム 南加記念ホール

ポートフォリオは大学教育の質向上に貢献できるか?

藤本 元啓 (金沢工業大学) 栗田 佳代子 (東京大学) 吉田 一恵 (愛媛大学) 司会: 佐藤浩章 (愛媛大学)

18:15～20:15 懇親会 会場: 愛媛大学大学会館 会費: 4,000円 (事前申込み制) ※3

4日目 8月23日(金)	10:00～12:00 FD・SD 共通 会議マネジメント 秦敬治・大竹奈津子 (愛媛大学) 定員 40名	10:00～12:00 SD SDコーディネーター養成講座①② 阿部光伸・米澤慎二・秦敬治 (愛媛大学) 定員 40名 ※事前課題の都合上、本プログラムの申し込みは、7月25日(木)に締め切ります。	10:00～12:00 SD インストラクショナルデザイン(ID/教育設計)を活用した職員による企画・立案マネジメント 仲道雅輝・津曲陽子 (愛媛大学) 定員 40名	10:00～12:00 FD 授業研究会、授業コンサルテーションのすすめ 川野卓二・香川順子・宮田政徳 (徳島大学) 定員 30名	10:00～12:00 FD・SD 共通 プレゼンテーションの極意—聴き手を魅了する秘訣とは?—①② 田中省三 (愛媛大学) 定員 40名	10:00～12:00 大学院生・学生 四国キャンパス元気プロジェクト2013—きんばす— 塩崎俊彦 (高知大学) 吉田博 (徳島大学) 定員 40名
	13:00～15:00 FD・SD 共通 プロジェクト・マネジメント—事業の動かし方、事始め— 泉谷昇 (いよこロシア大学) 定員 40名		13:00～15:00 SD 若手・中堅職員のためのコーディネート力養成講座 仲道雅輝・津曲陽子・兒玉健志 (愛媛大学) 定員 40名	13:00～15:00 FD コミュニケーションで成績を上げるチーム基盤型学習(TBL)の手法 立川明 (高知大学) 定員 40名		13:00～15:00 FD 教養教育を担当する教員のための授業づくり講座 高藤隆仁・吉田博 (徳島大学) 定員 30名

※1 ランチセッションは、昼食をとりながらのプログラムです。弁当を参加申込み時にご注文いただくか、各自でご準備ください。

事前に申込みされた方は、弁当代を全体受付時にお支払ください。なお、弁当の当日申込みはできません。

※2 8月22日(木)のランチセッション(11:30～13:00)は、「学生の想いを聞き出す、引き出す」と「四国キャンパス元気プロジェクト①」との合同セッションです。

※3 会費は全体受付時にお支払ください。

SPOD-SD
マップに基づき
開講される
プログラム
(「学務系プログラム
(レベル1)」は連続
受講を推奨)

トッリーダー
セミナー

連続受講が
必須のプログラム

SPODフォーラム2013 シンポジウム実施要項（案）

1. 日 時 平成25年8月22日（木） 15：30～17：45
2. 場 所 愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール
3. タイトル シンポジウム「ポートフォリオは大学教育の質向上に貢献できるか？」
4. 概 要 大学教育改革のツールとして「ポートフォリオ」が注目を浴びている。本シンポジウムでは、パネリストによる実践事例報告を踏まえて、学生・教員・職員の能力開発にあたってのポートフォリオの意義、効果、活用方法等について、議論を深める。
5. スケジュール ※司会進行 佐藤 浩章（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授）
 - 15：30 開会挨拶 柳澤康信（SPOD会長：愛媛大学長）
 - 15：35 シンポジウムの趣旨説明及びパネリスト紹介（佐藤准教授）
 - 15：40 事例発表①（30分）
「金沢工業大学におけるラーニング・ポートフォリオの実践事例について（仮）」
藤本 元啓（金沢工業大学 基礎教育学部 教授）
 - 16：10 事例発表②（30分）
「大学評価・学位授与機構におけるティーチング・ポートフォリオ及びアカデミック・ポートフォリオの実践例について（仮）」
栗田 佳代子（東京大学 大学教育総合センター 特任准教授）
 - 16：40 事例発表③（30分）
「愛媛大学におけるスタッフ・ポートフォリオの実践事例について（仮）」
吉田 一恵（愛媛大学 総務部人事課 課長）
 - 17：10 休憩（5分）
 - 17：15 総合討論（30分）
 - 17：45 閉 会

FD・SD共通

プログラム番号 08223H シンポジウム

ポートフォリオは大学教育の質向上に貢献できるか？

■講師



藤本 元啓

(金沢工業大学 入試部長 基礎教育部 修学基礎教育課程 教授)

皇學館大学大学院文学研究科博士後期課程(国史学専攻)修了後、皇學館大学史料編纂所研究嘱託、熱田神宮学院講師、皇學館大学非常勤講師等を経て、2002 年より現職。専門は初年次教育・日本中世政治史・軍事史など、多方面に造詣が深く、最近の主たる研究テーマは、初年次教育の授業法、ポートフォリオに関する実証的研究など。



栗田 佳代子

(東京大学 大学総合教育研究センター 特任准教授)

東京大学大学院教育学研究科修了後、カーネギーメロン大学 Visiting Scholar、大学評価学位授与機構研究開発部准教授等を経て、2012 年より現職、博士(教育学、2002 年、東京大学)。現職では、大学教員を目指す大学院生を対象とした「フューチャーファカルティプログラム」を担当。専門は教育・心理統計、ファカルティ・ディベロップメント、教員評価。P・セルディン氏に師事し、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオの”正しい導入”について、ワークショップ開催や翻訳、講演等を通じた実践的な研究を行っている。



吉田 一恵

(愛媛大学 総務部人事課 課長(危機管理室 副室長兼務))

愛媛大学法文学部法学科卒業。愛媛大学理学部、医学部、農学部、研究協力部、国際交流センターで主に総務、国際交流を担当、広報室副室長(命室長)、広報室長を経て現職。広報室時から現在まで危機管理室副室長を兼務し、記者会見等を所掌、報道対応マニュアル等を作成、現在は、特に人権侵害事案に対応すると共に人材育成(SD)に取り組んでいる。

司 会 : 佐藤 浩章 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授)

■プログラム概要

大学教育の質向上のツールとして、ポートフォリオが注目されています。ポートフォリオとは、持ち運びできる(portable)二つ折りの紙(folio)という語源があり、学習内容をまとめる書類入れ(ファイル)のことを意味します。

学生の学習内容については学習(ラーニング)ポートフォリオがあり、量的な測定がしにくい判断思考、技能、態度といった能力の測定ツールとして、日本の大学にも普及し始めています。教員についてはティーチング・ポートフォリオ(教育業績記録)もしくはアカデミック・ポートフォリオがあり、教員の教育業績もしくは全般的な業績の厳選した記録として、FD や業績評価ツールとして導入する大学が増えています。こうした考えを職員にも応用したものとして、スタッフ・ポートフォリオがあり、SD、キャリア開発、業績評価ツールとして導入している大学もあります。

SPOD では、これまでもポートフォリオを重視しており、教職員向けのポートフォリオ作成ワークショップを何度も開講してきました。

本シンポジウムでは、まず 3 人のパネリストに実践事例の提供をしてもらいます。学習ポートフォリオについては藤本氏、ティーチングならびにアカデミック・ポートフォリオについては栗田氏、スタッフ・ポートフォリオについては吉田氏にお話いただきます。

後半部分では、ポートフォリオの意義、効果、普及方法について、パネリスト同士の討論を中心に進めていきます。参加者各人がポートフォリオの自分なりの意義づけができるようになることを目指します。また当日は、携帯電話やパソコンからのメールでも意見を受け付け、IT 機器を使ったインタラクティブなシンポジウムを作る試みも行いう予定です。

■日時・会場・受講定員

日 時 : 平成25年8月22日(木)15:30~17:45

会 場 : 愛媛大学 城北キャンパス 南加記念ホール

定 員 : 220名

展示スペース等の設置について（案）

1. 目 的：「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D）」における今までの取組や、S P O D加盟校の取組の成果物などの展示や、資料を配付することにより、広く取組を周知する。
2. 場 所：愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース1
3. 実施期間：8月20日（火）～8月23日（金）
4. 実施方法：S P O Dの取組による成果物の展示、及びS P O D紹介DVDの放映等を行う
また、S P O D加盟校からも取組の成果物や配付資料等を事前に送付してもらい、展示等を行う。
5. 募集方法：S P O D事務局より、取組の成果物の展示・配付希望の調査を行う（8/2㍻切）。
※募集が多数の場合は、会場の都合でお断りすることもある。
6. 展示種別：教材、報告書、パンフレット、リーフレット、取組紹介DVDなど
7. 展示等準備：S P O Dの取組紹介の展示等についてはS P O D事務局が準備を行う。また、各加盟校の展示物等も、S P O D事務局にて行う。なお、展示物等は、着払いでS P O D事務局に送付する。
8. 展示物の返却：各加盟校から提供いただいた展示物等は、希望があればS P O Dフォーラム終了後、返送する。



主催 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク/愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

SPODフォーラム2013

ポートフォリオ (TP, SP, LP) による教育の質向上



2013年 8/20 (火) ▶ 23 (金)

会場：愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズほか [▶MAPを見る](#)

参加費：SPOD加盟校の教職員 無 料 / SPOD加盟校以外の教職員 7,000円

(※懇親会費、ランチセッションの弁当代は除く)

▼ 本フォーラムの実施にあたり参考とするため、下記の事前アンケートにお答えください。

*は必須項目です。

SPODフォーラムの参加は何回目ですか？*	☐ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目 ☐ 4回目 ☐ 5回目
SPODフォーラムについてどこで知りましたか？ (複数選択可)	☐ SPODホームページ ☐ SPODメールマガジン ☐ SPODフォーラムチラシ ☐ SPOD研修プログラムガイド2013 ☐ SPOD関係者からの案内 ☐ その他
SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？ (複数選択可)	☐ 自分自身の能力開発のため ☐ 組織の課題を解決するヒントを得るため ☐ 組織を超えた人脈づくりのため ☐ FDやSDに関する情報収集のため ☐ 上司に参加をすすめられたため ☐ その他
シンポジウムのパネリストに質問したいこと、など (700文字以内)	
各プログラムで学習したいこと、 期待していること、など (500文字以内)	

SPODフォーラム2013 アンケート（個別プログラム用）

機械で読み取りますので、筆記用具は 鉛筆かシャープペン を使用してください。
 あてはまる番号を 塗りつぶして ご回答ください。訂正する場合は 消しゴム でよく消してください。

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

- ① 大学 ② 短期大学 ③ 高等専門学校 ④ その他（ ）

(2) 所属先の設置者

- ① 国（国立大学法人） ② 地方自治体（公立大学法人を含む）
 ③ 学校法人 ④ その他（ ）

(3) 所属先の所在地

- ① 四国 ② 北海道 ③ 東北 ④ 関東
 ⑤ 中部 ⑥ 近畿 ⑦ 中国 ⑧ 九州・沖縄

(4) 職種

- ① 教員 ② 職員 ③ 学生 ④ その他（ ）

2. この研修について

- ④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② どちらかといえばそう思わない ① そう思わない

設 問		回 答			
(1)	研修目的や内容についてある程度知った上で参加した	④	③	②	①
(2)	研修は自分の業務に生かせる内容だった	④	③	②	①
(3)	研修の到達目標が明確に示されていた	④	③	②	①
(4)	研修はわかりやすい順序ですすすめられた	④	③	②	①
(5)	講師の言動は学習意欲を高めた	④	③	②	①
(6)	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	④	③	②	①
(7)	受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う	④	③	②	①
(8)	研修は全体的に満足できるものだった	④	③	②	①

3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

平成25年度第1回四国地区大学教職員能力開発ネットワークFD専門部会議事概要

1 日 時 平成25年5月29日（水）13：30～15：30

2 場 所 愛媛大学本部5階 第2会議室

3 出席者 徳島大学 香川准教授

香川大学 佐藤講師，石井修学支援グループチーフ

高知大学 立川准教授

愛媛大学 佐藤准教授，山田准教授，神教育企画課長

陪席者 徳島大学 三好教育企画室長

愛媛大学 清水助教，大竹助教，仲道助教，濱元教育企画チームリーダー，

山内教育企画課員，秋山教育企画課員，三好教育企画課員

4 議 題

（1）正副部会長の選出について

SPOD事務局の山内から，資料1－1～2に基づき，FD専門部会要項第4条により，正副部会長を選出する必要があることについて説明があり，部会長に愛媛大学の山田准教授を推薦し，了承された。続いて，山田部会長から，副部会長の選出について，FD専門部会要項第4条第4項より，部会長の所属校を除くコア校から部会長が指名することについて説明があり，高知大学の立川准教授を指名し，了承された。

（2）調査・研究プロジェクトについて

山田部会長から，調査・研究プロジェクトの経緯について説明があった。また，連携効果検証ワーキング，学生調査・IRワーキング，組織変容検証ワーキングの各主担当校から検討状況の報告があり，実施にあたっての課題等について意見交換が行われた。

（3）各校の今年度のFD活動やその課題について

各コア校から，今年度のFD活動の状況や課題，特徴的な取組の紹介等について報告があり，意見交換が行われた。

平成25年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会(第1回) 議事概要

日 時：平成25年5月29日（水）14：00～15：30

場 所：愛媛大学本部5F 第1会議室

出席者：徳島大学 小西人事課課長補佐

香川大学 松永給与福利課グループリーダー

高知大学 中山人事課長，川崎人事課課長補佐

愛媛大学 阿部特任助教，吉田人事課長，武智人事課副課長，

陪席者：愛媛大学 岸岡教育企画課員，戸田教育企画課員，八丈野教育企画課員，

久保人事課人事・人材育成チームリーダー，大本人事課人事・人材育成チームリーダー

神谷人事課員，川井人事課員

議 題

1. 正副部会長の選任について

吉田委員から，資料1-1～1-2に基づき，SD 専門部会要項第4条より，正副部会長を選出する必要があることについて説明があり，部会長に愛媛大学の秦教授を推薦し，了承された。

続いて，吉田委員から，副部会長の選出について，SD 専門部会要項第4条第4項より，部会長の所属校を除くコア校から，部会長が指名することについて説明があり，香川大学の松永チームリーダーが推薦され，了承された。

2. SPOD-SDC 認定証について

吉田委員から，資料2-1に基づき，SPOD-SDC 名称付与基準の説明を行い，資料2-2の様式によって，SPOD-SDC 資格認定証を発行する旨の提案があり，了承された。

また，資格認定証を発行するにあたり，SPOD 代表者印の作成について提案され，了承された。

3. 連携効果・組織変容検証ワーキンググループについて

阿部委員から，資料3に基づき，連携効果・組織変容検証ワーキンググループについては，連携効果・組織変容検証プロジェクトチームに名称を変更し，プロジェクトチームの下部組織としてワーキングチームを設置することについて提案があり，了承された。

また，阿部委員から，資料3に基づき，プロジェクトチームの業務内容等の説明を行い，各コア校からSD 担当者にプロジェクトチームに参加願いたい旨依頼があった。

4. 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）新任職員研修の実施場所について

吉田委員から，資料4に基づき，平成25年度の大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（新任職員研修）の実施状況について説明があり，各県で持ち回りで開催することについて提案があった。また，担当校となった場合は，会場手配・準備，資料の印刷，当日の運営等を行い，SPOD 事務局は，研修の企画や募集，講師の選定・依頼等を行うことになる旨の説明があった。

各県で開催することについては、四国地区共同初任者研修の順番に基づき、来年度は、徳島で実施することとなること、また、持ち回りとなった場合の順番としては、続いて香川・高知・愛媛の順番で実施する旨の提案があり、各大学に本議題を持ち帰り、審議することとなった。

5. 研修の名称変更について

吉田委員から、講師養成研修については、何の講師養成か分かりにくいという意見があることから‘職員のための講師養成講座’に名称を変更することについて提案があり、了承された。

引き続き、吉田委員から、大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修については、レベルⅢになっても‘基礎力養成’プログラム研修で良いのかという意見があることの説明があり、名称変更についてSPOD事務局にて検討した結果、各レベルにおいての‘基礎力養成’プログラムのため、現状のままで変更の必要はないとの提案があり、名称を変更しないことで了承された。

6. SD 分科会での意見について

大本人事・人材育成サブリーダーから、資料6に基づき、平成24年度SD分科会での意見に対する対応策について説明があり、了承された。

7. その他

(1) SPOD チャンネルについて

吉田委員から、資料7に基づき、SPODチャンネル・アンケートについて説明があり、まずは、試行版2つ(各9分程度)を公開し、今後のSPODチャンネルの内容等については、今後、検討していくこととなった。

なお、SPOD加盟校外にも、公開しても良いか検討し、今回は加盟校外にも広く公開して意見を求めることとなった。

(2) 社会連携系マップについて

吉田委員から、資料7-3～7-4に基づき、社会連携系マップが完成したことの報告があり、今年度は完成した社会連携系マップの中から、SPODフォーラムにおいて、レベルⅠの「社会連携基礎」を実施予定であることの説明を行った。

(3) 国際連携系マップについて

吉田委員から、国際連携系マップ開発のため、秋～年末頃にSPOD加盟校より国際連携系関係者や興味のある方を集め、ワークショップを実施し、今年度中に意見のとりまとめ・修正を行い、国際連携系マップを完成させる予定であることの説明があった。

また、開発した国際連携系マップを基に、平成26年度に国際連携系研修を実施予定であることの説明があった。

平成 25 年度 第 20/21 回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

平成 25 年 5 月 1 日

1. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室（教職員能力開発拠点）

「愛媛大学授業デザインワークショップ」は『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』事業の一環である。

2. 期 日

第 20 回 平成 25 年 7 月 6 日（土）～7 日 7 日（日）久万高原ふるさと旅行村（宿泊研修）

第 21 回 平成 25 年 9 月 2 日（月）～9 月 4 日（水）愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ
（同じ内容ですのでどちらか一方の参加となります。）

<第 20 回>

集合・出発時刻 1 日目 8:00 愛媛大学城北キャンパス正門前集合
8:10 出発（マイクロバスで移動）

※現地までは、原則として、愛媛大学から出発するマイクロバスでの移動をお願いします。

解散時刻 2 日目 15:20 愛媛大学城北キャンパス正門前解散

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

<第 21 回>

集合・開始、終了時刻 1 日目 8 時 50 分集合、9:00 開始、20:00 終了予定（交流会含む）
2 日目 8 時 50 分集合、9:00 開始、18:00 終了予定
3 日目 8 時 50 分集合、9:00 開始、14:00 終了予定

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

※上記日程でご都合が合わない方は、徳島大学、香川大学、高知大学においても同様の研修を実施しておりますので、そちらの研修にご参加ください。（詳細は 12 に表示）

3. 場 所

<第 20 回>久万高原ふるさと旅行村

〒791-1212 愛媛県上浮穴郡久万高原町下畑野川乙 488 番地 電話 0892-41-0711
URL:<http://www.kumakogen.jp/modules/furusatomura/>

<第 21 回>愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ

〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3 番
<http://www.ehime-u.ac.jp/access/johoku/index.html>

4. 参加対象者（一度参加した者は除く）

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員（授業担当経験 5 年以上を除く）
- 2) 参加を希望する教員
- 3) 愛媛大学テニユア・トラック教員

5. 実行委員

松本 長彦（実行委員長、教育・学生支援機構長）
 佐藤 浩章（教育企画室副室長）
 仲道 雅輝（教育企画室助教）
 松本 章雄（能力開発室）

小林 直人（教育企画室長）
 山田 剛史（教育企画室准教授）
 大竹奈津子（教育企画室助教）
 秋山 裕佑（能力開発室）

6. 目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

7. 目標

- 1) 適切な目的・目標設定ができるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる。

8. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。

9. その他

- 1) 『愛媛大学 FD ハンドブック もっと!!授業を良くするするために』第一巻（黄色い冊子）をテキストとして使用します。お手元にない方は、当日会場でお渡しします。
- 2) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 3) 第20回（7月実施）では宿泊いたしますので、洗面道具・タオル・寝間着（パジャマ）・虫さされなどの常備薬、懐中電灯等をご準備ください。
- 4) 参加費として、第20回（7月実施）は、8,500円程度（宿泊費、食費、交流会費など）、第21回（9月実施）は、5,000円程度（食費、交流会費など）を当日会場で徴収します。詳細は後日お知らせします。
なお、ご都合により参加できなくなる場合は、1週間前までに必ずご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費をご負担いただくことがあります。
- 5) 第20回（7月実施）に参加する愛媛大学の教員は、出張扱いとなりますので、各部署の総務担当にお問い合わせ願います。また、愛媛大学正門から会場までのマイクロバスを運行しますので、ご利用ください。
- 6) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行いますので了承ください。
- 7) 修了証書は、全日程に参加された方だけに授与されますので、あらかじめご了承ください。
- 8) 事前にアンケートをお願いすることになるのでご協力お願いいたします。

10. お申し込み・問い合わせ

以下の項目をご回答の上、申し込み先にご連絡ください。

※愛媛大学以外の方は所属大学の担当窓口にお申し込み下さい。

- 1) お名前（氏名・ふりがな）
- 2) ご所属（学部、機構、センター等）
- 3) メールアドレス
- 4) 電話番号
- 5) 愛媛大学でテニユア・トラック適用者の方はその旨をお知らせ下さい。

<愛媛大学申し込み・問い合わせ先>

E-mail: otake.natuko.mc@ehime-u.ac.jp TEL: (089)927-8922 (担当 大竹)

11. プログラム日程(宿泊研修の予定)

○第20回（7月実施）スケジュール

第I部 1日目（朝・昼・夕）プログラム

時刻	内容
9:30-9:40	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:40-10:05	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク

10:05－10:45	(3) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方
10:45－12:00	(4) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
12:00－13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00－13:40	(5) 講義Ⅱ 「何が学生の学びを促進するのか？」
13:40－14:20	(6) 講義Ⅲ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業・参加型授業
14:20－14:30	休 憩
14:30－15:00	(7) 講義Ⅳ「よりよい成績評価の仕方」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象
15:00－16:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・授業計画と評価計画
16:00－16:10	休 憩
16:10－17:25	(9) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 12分
17:25－18:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成

第Ⅱ部 1日目（夜）プログラム日程

時刻	内容
18:00－19:00	夕 食
19:00－21:00	(11) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・授業計画案作成
21:00－21:30	交流会
21:30－	自由時間・お風呂・就寝

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

時刻	内容
7:30－8:30	朝 食
8:30－10:00	(12) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・役割決定・授業の練習

10:00—12:00	(13) ミニ授業（導入の 10 分） ・ 授業紹介 ・ ミニ授業 ・ 討議・検討	10 分 15 分
12:00—12:30	(14) 閉会式 ・ 振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・ 修了証書授与 ・ 閉会の言葉	
12:30—13:30	昼 食	

13:45 現地出発 15:20 解散予定

※内容等予定は変更になることがございます。

○第 21 回（9 月実施）スケジュール

第 I 部 1 日目（朝・昼・夕）プログラム

時刻	内容
9:00—9:10	(1) オリエンテーション ・ 研修の目的・目標の確認 ・ スタッフ紹介とお願い
9:10—9:40	(2) アイスブレイキング ・ 自己紹介 ・ グループワーク
9:40—10:20	(3) ミニ講義 I 「何が学生の学びを促進するのか？」
10:20—10:30	休 憩
10:30—11:30	(4) ミニ講義 II 「シラバスの書き方 & よりよい成績評価の仕方」 ・ 目標設定の立て方 ・ コースデザイン ・ 成績評価の目的 ・ 評価の方法と評価対象
11:30—12:00	(5) グループワーク I 「共通教育科目の開発 I」 ・ 目標設定 ・ 授業計画 ・ シラバス作成
12:00—13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00—14:10	(6) グループワーク II 「共通教育科目の開発 I」 ・ 目標設定 ・ 授業計画 ・ シラバス作成
14:10—14:20	休 憩
14:20—15:00	(7) ミニ講義 III 「様々な授業方法」 ・ 講義形式のメリット・デメリット ・ 双方向型授業のコツ ・ 体験型授業 ・ 参加型授業

15:00-17:30	(8) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・シラバス作成 ・授業計画と評価計画
18:00-20:00	交流会

第Ⅱ部 2日目プログラム日程

時刻	内 容
9:00-9:40	(9) ミニ講義Ⅳ「クラスデザイン」
9:40-12:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成
12:00-13:00	昼 食
13:00-14:30	(11) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 15分
14:30-14:40	休 憩
14:40-15:40	(12) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・授業計画案作成
15:40-16:20	(13) ミニ講義Ⅴ
16:20-18:00	(14) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・授業計画案作成

第Ⅲ部 3日目プログラム日程

時刻	内 容
9:00-10:00	(15) グループワークⅥ「共通教育科目の開発Ⅵ」 ・授業の練習
10:00-12:30	(16) ミニ授業（導入の15分） ・授業紹介 ・ミニ授業 15分 ・討議・検討 20分
12:30-13:20	昼 食
13:20-14:00	(17) 閉会式 ・振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・修了証書授与 ・閉会の言葉

※昼食はお弁当を準備いたします。

※一日目の交流会はできる限りご参加ください。

※内容等予定は変更になることがあります。

12. 他大学における新任教員プログラムのご案内

1) 愛媛大学「授業デザインワークショップ」及び以下の徳島大学、香川大学、高知大学で開催されてい

る新任教員プログラムは、四国地区教職員能力開発ネットワーク(SPOD)内で標準化されており、どのプログラムを受講しても同様の効果を得ることができます。

2) 以下のプログラムの受講を希望される方は各大学申し込み先にご連絡ください。

3) 以下のプログラムは、愛媛大学テニユア・トラック制度における PD 認定プログラムとして認定されています。受講する際は、別途、旅費等が必要になります。

◆徳島大学「教育力開発基礎プログラム」

【日程】8月30日(金)～8月31日(土)

【会場】徳島大学大学開放実践センター2階(6号館 201)

【申し込み先・問い合わせ先】

徳島大学教育改革推進センター(担当/吉田)

TEL: 088-656-9865

E-mail: t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

◆香川大学「よりよい授業のためのFDワークショップ」

【日程】9月12日(木)～13日(金)

【会場】休暇村讃岐五色台(香川県坂出市)

【申し込み先・問い合わせ先】

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ(担当/石井)

TEL: 087-832-1153

E-mail: gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

◆高知大学「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」

【日程】9月2日(月)～9月3日(火)

【会場】高知大学共通教育棟3号館1階310教室

【申し込み先・問い合わせ先】

高知大学学務部学務課(担当/有澤・石川)

TEL: 088-844-8652

E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

平成25年度徳島大学全学FD推進プログラム
「教育力開発基礎プログラム」実施要項

1 目 的

各大学における教育の質向上への課題が高まる中、実質的なFDの取り組みを進めるための全学FD推進プログラムの一つとして、本研修を毎年実施しています。この研修では、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善を重視しています。また、授業について教員同士が学び合う場を提供する事で、教育の質向上のためのコミュニティ形成につながることを期待しています。

2 目 標

1. FD活動の理念、活動計画を理解する
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する
3. 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする
4. FD参加者同士の仲間づくりをする

3 概 要

この研修では、主に授業設計と教育技術に関する理論と実践を学んでいきます。主な活動内容は、シラバスと授業計画の作成、模擬授業です。体験を通して、授業の目的、到達目標の設定、授業実施の留意点、評価方法等について理解し、具体的な授業計画を立て、模擬授業を実施します。これらの活動を通してご自身の授業について考え、振り返ることで、実践的な教育力の向上を目指します。(研修前にシラバスと授業計画書を一度作成頂くことになります。)

4 実 施 日 平成25年8月30日(金)・31日(土)

5 実施場所 共通教育棟6号館201(徳島大学大学開放実践センター2階)
*参加人数によっては教室を変更する場合があります

6 研修プログラム 別紙のとおり

7 対 象 者 (1) 徳島大学

- ・学外より、講師または准教授採用後1年以内の教員
- ・学内で、助教から講師または准教授昇任後1年以内の教員
(ただし、所属が学部以外のセンター等、病院の場合、及びプロジェクト採用などの場合は除く。)
- ・学部等から推薦を受けた者(助教及び教授等)及び希望者
- ・平成24年度「教育力開発基礎プログラム」欠席者

【参加免除について】以下に該当する場合、参加が免除されます。

- ①学外で同様の研修を受けた場合(他大学等での研修修了者については、研修内容等がわかる資料を提出の上、個別に対応する。ただし、原則「授業コンサルテーション・授業研究会」への参加を義務とする。)
- ②診療業務を主に担当している場合

【研修の代替について】

やむを得ない理由により本研修を欠席する者で、SPOD*の同様の研修に参加した場合は、教育力開発基礎プログラムの代替を認める。(ただし、原則「授業コンサルテーション・授業研究会」への参加を義務とする。)

(2) SPOD*加盟校

SPOD加盟校の大学・短期大学・高等専門学校の新任教員(若干名)

*SPOD=四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 参 加 費 無料

9 そ の 他 「教育力開発基礎プログラム」対象者は、原則「授業コンサルテーション・授業研究会」への参加を義務とします。

※「授業コンサルテーション・授業研究会」の詳細は、
<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/article/0000268.html> をご覧ください。

10 主 催 徳島大学FD委員会／四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

教育力開発基礎プログラム（案）

第1日（2013年8月30日・金曜日）

集合場所：共通教育6号館201（徳島大学大学開放実践センター2階）

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-9:30	・受付（共通教育6号館201） ＊9:20までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
9:30-10:00	（1）オリエンテーション ・大学教育、FD、SDへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	川野卓二（進行） 副学長（教育担当） 高石喜久 FD委員会委員長 日置善郎	教室：6-201
10:00-10:30	（2）アイスブレイク「忘れられない授業」 参加者自己紹介・交流	吉田博	教室：6-201
10:30-11:40	（3）WS「質の高い授業を目指すためには？」 理想の授業と現状から授業の課題を探る	香川順子	教室：6-201
11:40-12:40	休憩 各自で昼食		生協食堂・売店営業
12:40-14:45	（4）講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・授業設計と評価 ・シラバス、授業計画書の検討・修正 ・模擬授業説明	川野卓二 宮田政徳 香川順子	教室：6-201
14:45-15:00	休憩		
15:00-17:40	（5）グループワーク「模擬授業・授業検討会」 （3人グループで実施） ・模擬授業の実施（撮影） 一人15分以内 ・映像を基に検討会 一人20分 →チェックリストを基によかった点、改善点等を検討する ・2日目の模擬授業代表者の選出と役割分担を決定	各班司会：FD委員 ワーク支援： スタッフ全員	教室：各班グループ 部屋へ移動 第1講義室（1階） 第2講義室（1階） 6-303 講義室（3階） 6-306 講義室（3階） インテリジェントラボ（3階）
18:00-20:00	交流会（任意参加）	吉田博	生協食堂2階

第2日（2013年8月31日・土曜日）

時 刻	内 容	講師・担当者	備考
9:30-10:00	・集合、模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は9:00集合)	スタッフ	教室：6-201
10:00-12:15	(6) 模擬授業実施 (グループ代表による模擬授業) A班 (10:00-10:30) B班 (10:30-11:00) 休憩 (15分) C班 (11:15-11:45) D班 (11:45-12:15)	司会：吉田博 コメンテーター： FD 委員 支援：スタッフ全員	教室：6-201 <模擬授業実施手順> ・模擬授業・授業検討会報告（代表より2分） ・選出理由（班メンバーより3分） ・模擬授業（15分） ・質疑応答（5分） ・交代（5分）
12:15-13:15	休憩 昼食（交流会）＊全員参加		＊生協休業
13:15-14:15	(7) プログラムのまとめ ・模擬授業のまとめ ・講評 ・授業コンサルティング、 ティーチング・ポートフォリオについて ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	川野卓二 副学長（教育担当） 高石喜久 FD 委員会委員長 日置善郎	教室：6-201

*青字…参加者が決まり次第検討